



## 15歳の子供たちはお金の管理の仕方を知っているか。

- PISA調査のファイナンシャルリテラシー評価に参加した13のOECD加盟国・地域の平均で、生徒たちの10%は複雑な金融商品を分析し、型通りでない金融問題を解くことができる一方で、15%ができるのは、せいぜい毎日の出費について簡単な決断をしたり、送り状などの日常的な計算書類の目的を理解したりすることである。
- 参加している18の国・地域のうち17の国と地域において、男子も女子もファイナンシャルリテラシーで同じようなスキルを示している。しかし、数学的リテラシーと読解力の類似している生徒たちの間では、18の国・地域のうち11の国・地域で、男子の方が女子よりもファイナンシャルリテラシーの成績が良い

金融商品とサービスはますます複雑になってきており、今日の若者は、恐らくその人生において、親の世代よりも多く金融に関する決定を下す必要に迫られるだろう。義務教育の終わりに近づいている生徒たちは、既に金融商品の消費者である。多くは銀行口座をもち、オンライン支払サービスを利用し、あるいは、プリペイド式携帯電話をもっている。また、進学して高等教育を受けるかどうか、その場合の費用はどう賄うか、保護者と相談しながら決定しようとしている者も多い。しかし、15歳の子供たちは、成人としての生活に必要な金融の知識とスキルを身に付けているだろうか。

PISA2012年調査には生徒たちのファイナンシャルリテラシーの評価が含まれ、これはこの種のものとして初の国際的調査だった。18のOECD加盟国及び非加盟国・地域で、およそ29,000人の生徒たちが、約900万人の15歳の生徒の代表として、参加した。

参加国・地域の  
ファイナンシャルリテラシーの成績

ファイナンシャルリテラシーの習熟度は、  
国・地域間でも、各国・地域内でも、  
著しく異なる。

上海の生徒たちが、平均でファイナンシャルリテラシーにおいて最も良い成績を収め、その平均得点603点はOECD加盟国平均を103点上回っている。平均して、オーストラリア、ベルギー（フラマン語圏）、チェコ、エストニア、ニュージーランド及びポーランドも、OECD加盟国の平均を上回る得点である。OECD加盟国間で成績の最も良い国・地域と最も振るわない国・地域との間の得点の隔たりは75点で、これは習熟度1レベル分に相当する。一方、参加しているすべての国・地域間で、成績の最も良いところと最も振るわないところの差は225点以上である。しかし、各国のファイナンシャルリテラシーの平均得点における違いのうち、国の豊かさで説明できるのはわずかな部分（16%）にすぎない。

参加している13のOECD加盟国・地域全体で、PISA2012年調査のファイナンシャルリテラシーについて最も高い習熟度、すなわちレベル5の得点の生徒は10人に1人にすぎない。こうした生徒たちは、振替手数料などの要素を考慮して口座取引明細書の残高を計算するなど、型通りでない金融問題を解くことができ、所得税に基づく税率区分の意味を含めた、より幅広い金融分野の理解を示すことができる。習熟度の範囲の対極では、平均して生徒の15%が、成績の基準レベルであるレベル2以下の得点である。こうした生徒たちができるのは、せいぜい、必要と欲求の違いを認識すること、毎日の出費について簡単な決断をすること、送り状などの日常的な計算書類の目的を理解すること、個人的に遭遇したことがありそうな状況で単独の基本的な数値計算（足し算、引き算、又は掛け算）を行うことなどである。

平均して、最も成績優秀な10%の生徒たちと成績が最も振るわない10%の生徒たちとの間の得点の隔たりは、247点である。オーストラリアとベルギー（フラマン語圏）ではその差が250点を超える一方、ニュージーランドでは305点を超えている。

	平均 得点	順位の範囲	
		全ての参加国	
		上位	下位
上海	603	1	1
フラマン語圏(ベルギー)	541	2	2
エストニア	529	3	4
オーストラリア	526	3	5
ニュージーランド	520	4	6
チェコ	513	5	7
ポーランド	510	6	7
ヴェネト州(イタリア)	501		
フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州(イタリア)	501		
ラトビア	501	8	9
OECD平均(13か国)	500		
ボルツァーノ(イタリア)	500		
トレント(イタリア)	498		
アメリカ	492	8	12
ロンバルディア州(イタリア)	491		
ロシア	486	9	14
フランス	486	9	14
スロベニア	485	9	14
スペイン	484	10	15
エミリア=ロマーニャ州(イタリア)	481		
ピエモンテ州(イタリア)	481		
クロアチア	480	11	16
イスラエル	476	11	17
ヴェッレ・ダオスタ州(イタリア)	476		
マルケ州(イタリア)	474		
ウンブリア州(イタリア)	474		
トスカーナ州(イタリア)	471		
スロバキア	470	15	17
リグーリア州(イタリア)	468		
イタリア	466	16	17
プッリャ州(イタリア)	462		
ラツィオ州(イタリア)	460		
モリーゼ州(イタリア)	453		
アブルッツォ州(イタリア)	449		
バジリカータ州(イタリア)	446		
サルデーニャ(イタリア)	446		
カンパニア州(イタリア)	439		
シチリア(イタリア)	429		
マニサレス(コロンビア)	417		
カラブリア州(イタリア)	415		
メデジン(コロンビア)	414		
ボゴタ(コロンビア)	397		
カリ(コロンビア)	389		
コロンビア	379	18	18
Rest of the country(コロンビア)	372		

注: 国名及び国の結果に含まれていない地域名を黒の太字(OECD加盟国)と青の太字(OECD非加盟国・地域)で、それ以外の地域名を黒の斜体(OECD加盟国)と青の斜体(OECD非加盟国)で表している。

国・地域名は、ファイナンシャルリテラシーの平均点が高い順に並べている。

出典: OECD, PISA 2012 Database.

StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888933094887>

PISA調査では、ファイナンシャルリテラシーを「金融の概念とリスクの知識及び理解と、金融上の様々な状況にわたって効果的な決断を下し、個人と社会の金融に関する状態を改善し、経済生活への参加を可能にするためにそのような知識及び理解を応用するスキル、意欲及び自信」と定義している。



ファイナンシャルリテラシーは、**数学的リテラシーや読解力のスキルとは異なるスキルである。**

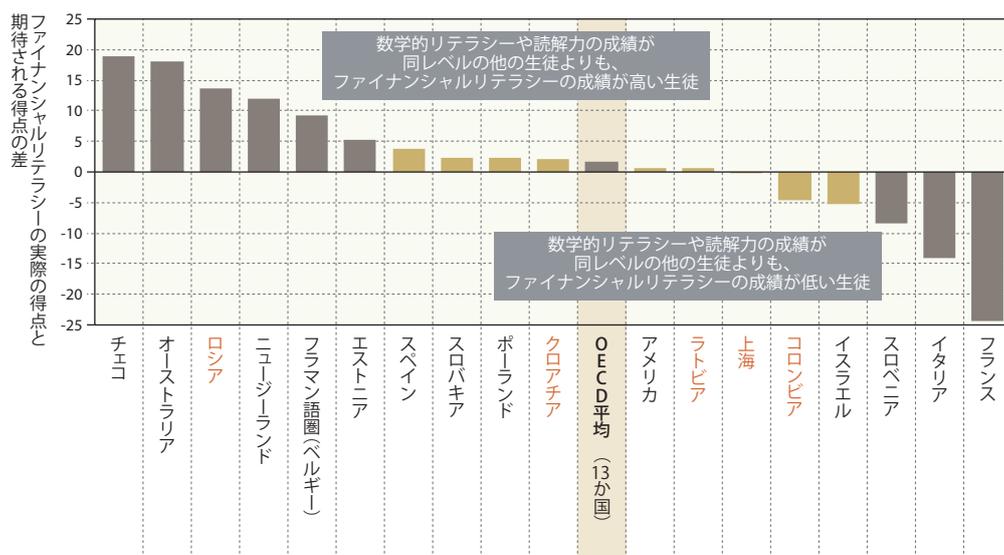
数学的リテラシーや読解力のスキルはファイナンシャルリテラシーと密接に関連するものの、これらのコア分野のうち1分野において習熟度が高いからと言って、それは必ずしもファイナンシャルリテラシーの成績が優秀であることを意味しない。ファイナンシャルリテラシーの成績が優秀な一部の国々、例えば、オーストラリア、チェコ、エストニア、ベルギー（フラマン語圏）及びニュージーランドの生徒たちは、平均して数学的リテラシーや読解力での成績から予想されるよりファイナンシャルリテラシーの得点が高い一方、フランス、イタリア及びスロベニアの生徒たちは、数学や読解力での成績に基づいて期待される成績に及ばない。

PISA 調査では、参加している OECD 加盟国・地域全体の平均で、社会経済的に恵まれた生徒は、それほど恵まれていない生徒よりも、ファイナンシャルリテラシーの得点が41点（習熟度レベルの半分以上に相当）高いことも分かっている。上海では、家庭の豊かさ（社会経済的地位の構成要素の一つ）が、数学の成績よりもファイナンシャルリテラシーと強く関連付けられる。イスラエル、ニュージーランド、上海及びスペインでは、家庭の豊かさが読解力よりもファイナンシャルリテラシーと強く関連付けられる。

PISA 調査では一貫して数学的リテラシーと読解力の成績における男女格差が示されてきたが、ファイナンシャルリテラシー評価に参加した18の国・地域のうち17の国・地域で、ファイナンシャルリテラシーについて、男子と女子の平均点にそのような差は見られない。しかし、数学的リテラシーと読解力の成績が類似している生徒たちの中では、18の国・地域のうち11の国・地域で、男子の成績は女子を上回っている。

複雑化が進む金融界に向けて生徒たちを準備させる目標に対し、各国は非常に異なるアプローチを取っている。学校の教育課程に金融教育を導入し始めた国々もあれば、数学などの重要な分野における生徒たちの概念的理解の強化を正面から重視し、次いで生徒たちがその理解を、金融を含む様々な状況で応用できるようになることを期待する国々もある。後者のグループには成績上位の上海が含まれ、その生徒たちが、学校で金融面の状況を背景とする問題に触れることはめったにないとしても、ファイナンシャルリテラシーで他のどの国よりも高い習熟度を示しているという事実は、ファイナンシャルリテラシーを発達させる方法の探究には、まだ多に議論の余地があることを示している。

ファイナンシャルリテラシーの相対的な成績



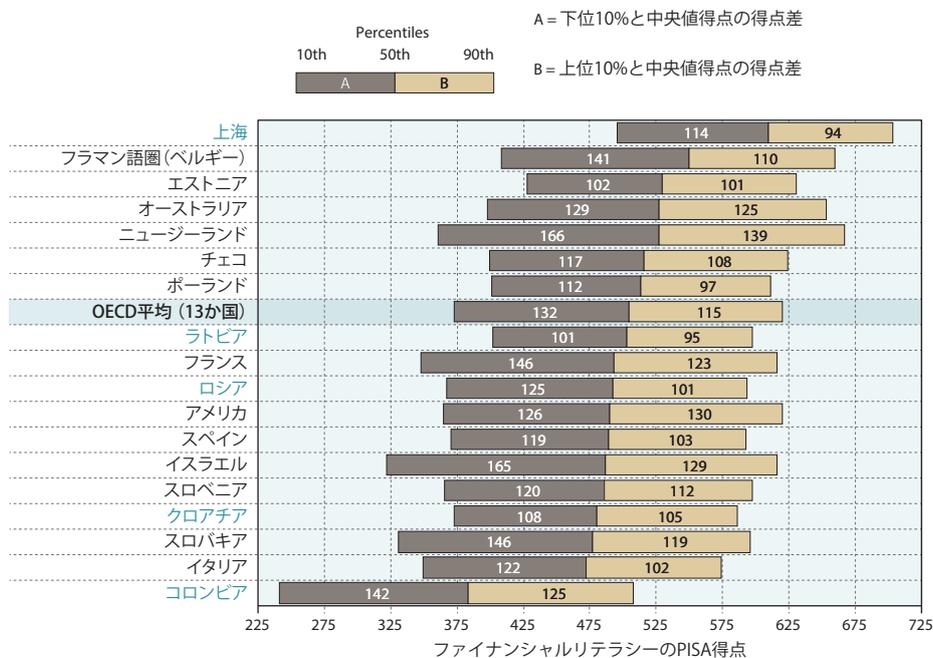
注：濃い色は、有意差があることを示す。  
 国・地域名は実際の得点と期待される得点の差が大きい順に並べている。  
 出典：OECD, PISA 2012 Database, Table VI.2.4.  
 StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888933094887>



# PISA

IN FOCUS

## 各国・地域におけるファイナンシャルリテラシーの変動



国・地域名は、ファイナンシャルリテラシーの成績の中央値が高い順に並べている。

出典：OECD, PISA 2012 Database, Table VI.2.4.

StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888933094887>

**結論：個人が金融の概念及び商品の理解を深めるほど、金融に関する決断をする際の情報が増える。こうした決断は、個人の世帯だけでなく、最終的にはより広い社会の経済の健全性にも影響する。**

本稿に関するお問合せ先

担当：Flore-Anne Messy ([Flore-Anne.Messy@oecd.org](mailto:Flore-Anne.Messy@oecd.org)) or Pablo Zoido ([Pablo.Zoido@oecd.org](mailto:Pablo.Zoido@oecd.org))

出典：OECD (2014), *PISA 2012 Results: Students and Money: Financial Literacy Skills for the 21st Century* (Volume VI), PISA, OECD Publishing, Paris.

参考サイト

[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

[www.oecd.org/pisa/infocus](http://www.oecd.org/pisa/infocus)

*Education Indicators in Focus*

*Teaching in Focus*

次回テーマ：

「学校間の競争が有益となるのはどうか。」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。

Photo credit: © khoa vu/Flickr/Getty Images © Shutterstock/Kzenon © Simon Jarratt/Corbis

This paper is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of OECD member countries.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.